

非認知能力の育成で保護者のかたが心がけたいポイントとは？

1月、2月の園だよりで、非認知能力についてお知らせしました。今回は最終回になります。ご一読いただければありがたいです。

○ 子どもが興味をもったことに取り組ませる

非認知能力は、子どもが興味をもったことに取り組む中で育ちやすいと言われていま

す。
例えば、子どもがコマ回しに興味がある場合に「もっと上手になりたい」という気持ちをもって一生懸命に練習する中で、我慢強さや根気強さが育つのです。そこで保護者のかたとしては、「もっと上手になれるようにがんばってごらん」と、目標を高く持つように促したり、途中であきらめそうになった時に「練習すれば、きっとできるようになるよ」と、根気強く続けられるように励ましたりするサポートが大切になります。

○ 「育てたい力や姿勢」を考える

子どもが縄跳びにチャレンジしていたら「何回できたか」に目が向くのではないでしょう。非認知能力を育てるためには、そうした目に見えるスキルではなく、育てたい力や姿勢を意識してください。例えば「縄跳びを通して、目標を持ってがんばったり、上手にできるように工夫したりできるようにしたい」といった視点でサポートすることで、非認知能力は高まっていきます。そして、結果として、縄跳びのスキルも高まるはず

○ 豊かな環境を準備する

家庭でテレビやDVDを見るだけの過ごし方をしていたら、がんばったり、工夫したり、自身をつけたりする経験はほとんどできません。子どもがおもしろいと感じたり、関わったりしたくなる素材を家の中にたくさん用意しましょう。特別な物である必要はなく、ゴミとして捨てている牛乳パックやペットボトル、段ボールなどを置いておくだけで、大人が想像もしない遊びが展開するでしょう。また、子どもの好きな絵本シリーズとはジャンルが異なる本と出合う場を作ることで、興味もどんどん広がって行くはず

○ 文字や数の力は遊びながら育てる

幼児期に文字や、数を学ぶ場合はできるだけ楽しめるように心がけましょう。ドリルなどに取り組むより、遊びの中で文字を書いたり数えなくなったりする場面を作ると「もっと知りたい」という気持ちが自然と起こり、スキルと一緒に非認知スキルも伸びていきます。例えば、お店ごっこをリアルにするために看板やメニューを作ったり、拾って木の実を数えたり、少し工夫するだけで文字や数にかかわる学びは簡単に遊びの中に取り入れられます。

「ベネッセ教育情報サイト」2017.10.10 配信より抜粋

1月に幼稚園に大きな段ボールに入った荷物が届きました。各クラスに1つずつ渡しました。子どもたちは、大きな段ボールを立ててその中に入ったり、横にしてその中で寝たりしていました。段ボールのふたを門にして出入りをする時に、声を掛け合っていました。また、マジックを持ってきて大きく絵を描いている子もいました。

大人の少しの支援で、子どもたちが自分の思い通りにする、できるを味わってほしいと思います。